

「もんじゅ」に係る主な課題

新たな運営主体が備えるべき要件

1. 拙速な保全プログラムの導入

- ◆ 研究開発段階炉にあるべき保守管理の検討が不十分なまま、拙速な保全プログラムの導入

2. 脆弱な保全実施体制

- ◆ 品質保証、保守管理に関する不十分な理解、PDCA含め脆弱な実施体制
- ◆ 保守管理に係る業務を外部に頼る傾向

3. 長期停止の影響

- ◆ 実際に運転、発電した期間が短いため、運転保守に関する知見の蓄積が不十分
- ◆ 長期間停止の中で経験者の退職、出向者の帰任によるノウハウ等の逸失
- ◆ 停止の定常化によるモチベーション、マイプラント意識の低下

4. 人材育成の課題

- ◆ 高速炉の実用化に向けた道行きが不明確な中で、将来に向けた人材育成の困難さ
- ◆ 電力事業者やメーカー等からの出向支援を通じたプラント保全経験者のノウハウの定着不足
- ◆ 原子力規制委員会からの各種要請等を踏まえ、プラント保全担当部署の強化を図るも、管理職の経験値が不足

5. 情報力や統率力の課題

- ◆ 実用発電炉と比べての規制動向や技術情報に対する情報収集力の低さ
- ◆ 機器・設備等に関する設計ミスを見抜けないなど、技術力の不足
- ◆ 複数メーカーが行う保守管理の一元的な管理、統率能力の不足

6. 東電福島原発事故後の社会的要請の変化への適応力の不足

- ◆ 安全・安心に関する社会的要請の高まりに対する、状況把握と対応が不十分

7. 日本原子力研究開発機構の運営の課題

- ◆ 研究開発が優先され、経営陣含め保守管理が十分に重要視されていない
- ◆ これまで繰り返し改革に取り組んできたが、十分な成果があがっていない

8. 関係機関との関係の在り方等の課題

- ◆ 監督官庁との間の緊張関係の不足
- ◆ 関係者の責任関係についての不明確さや認識の不足

1. 研究開発段階炉の特性を踏まえた、ナトリウム冷却高速炉にふさわしい保全プログラムの遂行能力を有すること

- ◆ 原子力機構が電気事業者やメーカーの支援を受けて実施している保全計画の抜本的見直しの完遂及び継続的な改善
- ◆ 運転・保守データの収集・分析・評価による、研究開発段階炉の特性を踏まえた、ナトリウム冷却高速炉にふさわしい保全の在り方の追求及び実証炉以降に向けた知見の蓄積

2. 発電プラントとしての保守管理・品質保証のための体制・能力を有するとともに適切な人材育成ができること

- ◆ 他プラントの経験者やシニアエキスパートの活用を含め、能力・経験のある者の保守管理・品質保証部門の重要なポストへの登用
- ◆ 保守管理・品質保証部門へのプロパー職員の継続的な配属による体制・能力の維持
- ◆ 保守管理・品質保証部門の確実な実施に資する人材育成システム、人事制度の構築（保守管理の人材育成のための評価制度の導入、信賞必罰に基づく処遇、他のプラントを含めたキャリアパスの構築、電力事業者の発電プラントでの長期研修の実施等）

3. 保守管理・品質保証の信頼性の向上に資する情報の収集・活用能力及びナトリウム冷却高速炉に特有な技術力等を有すること

- ◆ 実用軽水炉に関するものを含めた規制動向や技術動向に係る重要な情報の的確な収集・活用
- ◆ メーカー各社に分散している技術情報の掌握、保守管理作業を十分に統率できる技術力の確保
- ◆ 膨大な保守情報や設計情報等の技術情報の電子化・データベース化による組織としての実効的な活用可能環境の構築
- ◆ 原子力機構が保有するナトリウムやMOX燃料等の取扱技術、核不拡散に対応し貢献できる能力等の確実な継承

4. 社会の関心・要請を適切に運営に反映できる、強力なガバナンスを有すること

- ◆ 社会からの強い要請である安全に係る対応を経営の最優先事項とする組織運営及び組織文化の実現
- ◆ 原子力に閉じることなく、社会の関心や要請を踏まえた意思決定が可能となるような原子力以外の分野の外部有識者の経営への参画
- ◆ 主務官庁に依存しない、自らの経営問題の自律的な判断・行動、規制当局との十分なコミュニケーション